

組合理念

私たちの思い

人が人として大切にされる社会をめざし
保健・医療・介護の事業と運動をとおして
様々な人たちと手をつなぎあい
平和と暮らしを守り
健康で明るいまちをつくります。

くらしき
医療生協

Each for All and All for Each

ISO9001認証取得

発行所  倉敷医療生活協同組合
〒712-8025 倉敷市水島南春日町13-1 TEL.086-444-4321
発行者 機関紙編集委員会

アドレス <https://www.kura-hcu.jp>
〈連絡〉 TEL.086-444-4321 FAX.086-448-4150
mail : soumu@kura-hcu.jp
ご意見・ご要望を総務部までお寄せください。

未来につながる健康づくりの輪



ヘルスチャレンジ参加から広がる健康づくり・つながりづくり

倉敷医療生協創立70周年

倉敷医療生協は10月5日に創立70周年を迎えます。みんなの力で困難を乗り越え、歩んできました。未来につながる健康づくりの輪をさらに広げましょう。

地域に広がる健康づくりの輪

倉敷医療生協が、地域の中で取り組んできた「健康づくり・まちづくり」の取り組みは、70年

を経た今、若い世代にも大きく広がりました。ヘルスチャレンジの取り組みには、小中学校21校をはじめ、8千人近い参加になっています。気軽に参加できる健康づくりをきっかけに、医療生協の支部や班の活動参加や新しい担い手づくりにつながっています。

生協強化月間では、幅広い世代が参加して、楽しく活動できる医療生協の「健康づくり・つながり・つなぐ」の輪をさらに大きくしましょう。

機関紙を配布して30年以上に

水島在住の藤村宣江さんは、長年機関紙配布を続けています。



藤村宣江さん

歳体操やウォーキングを続けている頼もしい大先輩です。

で、何にでもチャレンジしとったから」と満面の笑顔がこぼれます。今でも百

ヘルスチャレンジがきっかけで

「水島協同病院ができた頃から、地域の皆さんの協力でサロンのような活動に取り組んできました」と。医療生協のさまざまな活動に参加するうち、機関紙の配布も始めました。

玉島在住の小野彰子さんは、ヘルスチャレンジ参加をきっかけに、機関紙の配布を始めて1年目です。



小野彰子さん

「配布先が、廃品回収に協力してください。お宅や、サロンで会う方であったりです。」

70年の歴史を踏まえ、若い世代へと担い手のバトンが繋がっている場面に会ったことができた。

発見がいっぱい」と小野さんは話します。最近では途中のお宅で世間話が楽しみとか。「気がついたら、町内のもつながりづくりにもなってるみたい」

人が大切にされる社会へ



倉敷医療生活協同組合 理事長 吉井健司

倉敷医療生協は創立70周年を迎えます。組合員302人、職員3人から始まった小さな診療所が、今日では組合員6万4千人、職員

1千3百人、20を超える事業所を運営するまでに発展しました。私が医師として倉敷医療生協に入職したのが1983年、以来40年働かせていただいたことになりました。沢山の患者さん、組合員さんそして職員との出会いと別れがあり、今の自分があると思

患者さんと利用者さん、地域の方々の受療権と健康権を最優先に守り、健康寿命の延伸と健康格差の縮小に向けて、さらに発展できることを70年の歴史が教えてくれています。「一人ひとりを大切にす

る社会」「健康で明るいまちづくり」の協働の輪を未来に向かってさらに広げていきたいと思います。



「貧困や国籍による差別のない、民主診療所づくりの中心」と、倉敷の板野勝次氏（元共産党の医療生協の組合員募集、お医者さんごがし、資金集めに奔走したこと、昨日のように思い出しついでに頑張るつもりです。（栗本泰治名誉理事長）

成功はみんなの力

「貧困や国籍による差別のない、民主診療所づくりの中心」と、倉敷の板野勝次氏（元共産党の医療生協の組合員募集、お医者さんごがし、資金集めに奔走したこと、昨日のように思い出しついでに頑張るつもりです。（栗本泰治名誉理事長）



⑤2階まで浸水した真備歯科診療所の復旧作業



⑥コロナに負けない！手づくりの防護服



④家と職を失った人を支援「ほっとスペース25」を開設



③公害のたたかい裁判に勝利

倉敷公害裁判 被告企業と勝利の和解



初代所長の金高所長(右)と矢吹(長綱)看護師(左)



②病院の一室でユニット2台、職員10人で歯科診療開始

①水島瑞穂町の長屋に看板をあげて始まった水島診療所

倉敷医療生協・略年譜	
1953年6月	医療生協発起人会生まれる
1953年8月	水島医療生活協同組合創立 (組合員302人)
1953年10月	水島診療所誕生(職員3人)
1954年1月	亀島診療所開所
1955年1月	法人認可。2月28日法人登記
1955年1月	森水ヒ素ミルク中毒事件の被害児検診に取り組み
1956年4月	水島協同組合病院開院(25床)
1958年2月	機関紙の前身「水島生活協同」創刊
1958年6月	水島協同組合病院55床
1958年10月	南診療所開所
1962年5月	医療生協の厚生年金還元融資第一号に決まり、本格的な病院建設へ
1963年4月	水島協同病院新築落成(170床)
1964年7月	公害健康調査など公害問題に着手
1964年12月	医療生協文化誌「博動」創刊
1966年8月	水島協同病院新築落成(257床)
1968年2月	公害防止市民協議会結成(医療生協が事務局)
1969年6月	浦田診療所開所
1970年7月	老人医療費無料化運動に取り組み
1972年10日	乳幼児医療費無料化運動
1975年12月	子どもの歯を守る会結成
1975年5月	歯科診療始まる
1976年7月	水島歯科診療所開所
1978年12月	玉島協同病院開院
1979年7月	玉島協同病院歯科オープン
1980年10月	水島労働会館を買取り医療生協会館に
1981年	組合員2万人突破、1万人参加の健康まつり
1982年4月	新総合病院建設運動一坪運動
1983年11月	真備歯科診療所開所
1984年	倉敷公害裁判はじまる
1985年11月	阿新医療生活協同組合と組織統合、11月阿新歯科診療所開設
1987年7月	総合病院水島協同病院落成
1987年12月	健康協同病院を開設(1-3床)
1993年10月	倉敷公害裁判勝利・和解
1994年2月	児島歯科診療所開所
1995年1月	阿新医療歯科診療所開設
1996年3月	老健あかね開設
1997年5月	水島虹の訪問看護ステーション開所、6月玉島開所
1999年4月	水島歯科診療所新築移転
1999年4月	水島在宅ケアセンターふれあい診療所開所
1999年6月	高梁歯科診療所開所
2000年4月	コープからしき医療・歯科診療所開所
2001年7月	ダイヤサービスセンターレイノボ開所 (通所介護施設)
2003年7月	ケアハウスちどりオープン(定員50人)
2004年10月	医療生協みずしま診療所開所
2006年10月	さくららほっぴつ産院開設
2009年	ほっとスペース25開設。派遣労働者の解雇多発住居を失った人の駆け込み寺
2011年3月	東日本大震災発生。福島原発事故発生。震災被災者への医療支援活動
2011年5月	真備歯科診療所新築移転
2014年12月	玉島協同病院新築移転
2015年2月	阿新歯科診療所新築移転
2017年2月	コープハビリテーション病院・老健あかね新築移転
2017年4月	組合規則改定(班の位置づけ・班会開催援助金支給基準変更)
2018年7月	平成30年7月豪雨発生。真備歯科被災
2018年12月	児島歯科診療所新築移転
2019年1月	真備歯科診療所再開
2019年12月	ダイヤサービスセンターレイノボ新築移転
2019年12月	新型コロナウイルス感染症世界で流行
2020年1月	防護服づくりで医療従事者を激励
2021年1月	核兵器禁止条約発効
2022年	「げんき応援隊養成講座」スタート
2022年3月	班会開催数13,852回(過去最大記録)
2023年9月	組合員活動交流集会を4年ぶり開催
2023年10月	創立70周年記念日



⑦地域まるごと健康づくりげんき応援隊養成講座



毎年恒例のおせちを一人暮らしのお宅へ



9条鐘つき子どもも参加



笑顔が広がるとうる班会



海ごみを減らそう川ごみ調査



環境を考えるヘチマプロジェクト



核兵器なくせ！と23年国民平和国民平和大行進



健康まつり子どもが元気

いのちを守る 人をつなぐ



「ちょっと困った」の
支えあい
千鳥町「ちどり助け愛
たい」の活動

水島協同病院



歯科の往診



乳幼児の歯科検診



班会は社会参加の第一歩
日常的な支え合いの場



在宅復帰から復職へ
多職種連携



コープリハビリテーション病院
老健あかね



専門的な看護ケア
安心の医療提供を



無料低額診療の実施
水島協同・コープリハ・玉島協同病院



誰もが安心して医療を
倉敷市国民健康保険課との懇談



玉島協同病院



倉敷医療生協 祝 創立70周年

地域に寄り添った事業の継続
真備歯科診療所の再開



ミニ健康展に事業所も参加して



地域に出て地域の人々とともに
医療講話の活動



ミニ健康展の活動



子育て世代とともに
「子育てひろば」で健康づくりの輪

地域のサロンとも連携
フレイル予防の取り組み



子育て中の若い世代とつながって
「子育てひろば」での取り組み

